

拡張F提案とIVD登録の状況について

2013 年9月

独立行政法人情報処理推進機構

背景



- 文字情報基盤における国際標準化のゴール
 - 全てのMJ文字図形がISO/IEC 10646(UCS*)により一意に特定でき、情報交換可能とすること
- 新規符号化提案とIVD登録でゴールを目指す
 - 新規符号化提案（拡張F提案）

既存のUCS符号で扱うことができない文字については、ISO/IECへ新規符号化提案

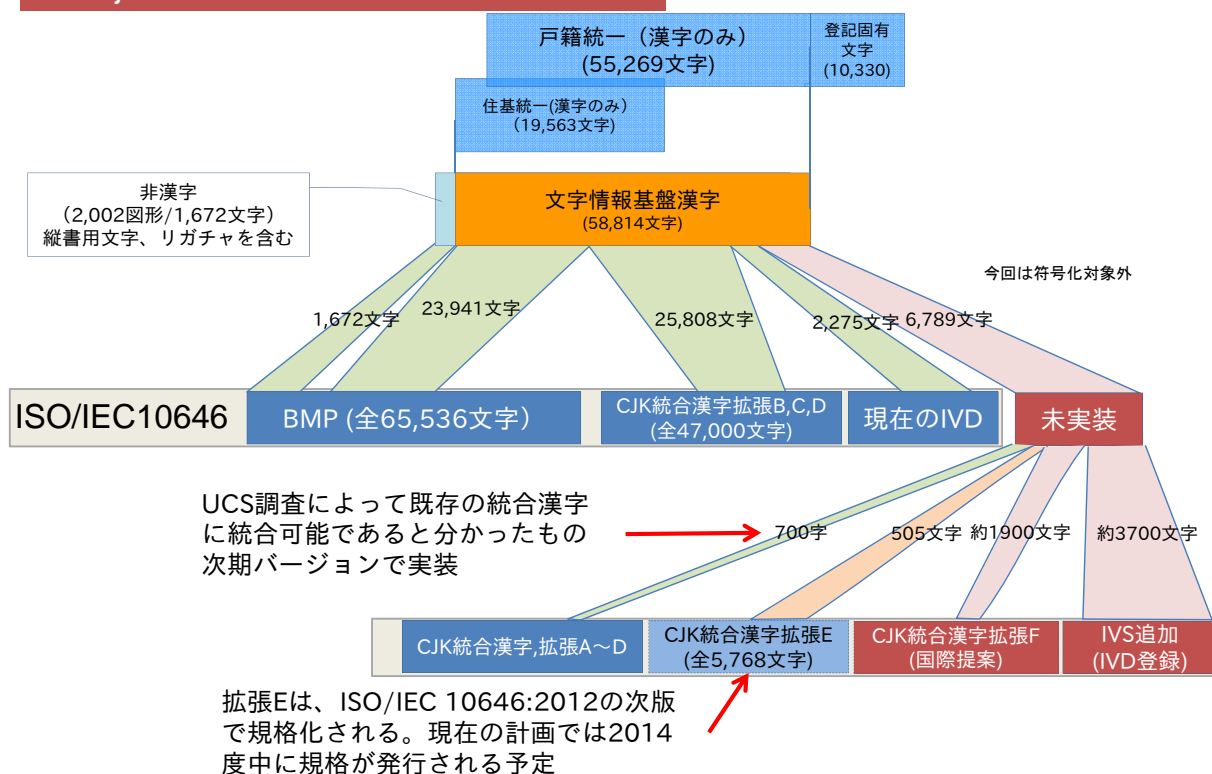
- IVD**登録

UCS符号に複数MJ文字図形が対応する場合(複数の字体が存在)字形選択子(VS)によって識別

*Universal Coded Character Set

**<http://www.unicode.org/ivd/>

IPAmj明朝フォントVer.002.01の符号化状況



2

拡張F提案の状況について

- 1,834文字を提案し受理された (2012年10月)
 - 電子行政での必要性を強調し、理解を得られた
 - 新規の提案に当たって提出が求められていた典拠資料として、電子政府用の文字情報データベースでも認められることとした。
- 拡張F分割 (2013年5月)
 - IRGは、拡張Fで提案された文字数が多い (8000文字) ため、先に作業するF1と、次に作業するF2に分割することに決めた。
 - 日本からは、総務省の「外字実態調査*1)」で実利用が確認された518文字をF1に入れるよう求め、承認された。

1) 市区町村の使用する外字の実態調査 (2012年3月)

- 文字情報基盤のIVDコレクション名
 - Moji-Johoコレクション(MJコレクション)と命名
- IVD登録に係る方針
 - 文字情報基盤が規範としている汎用電子の成果物から多くを継承
- 情報規格調査会SC2専門委員会への依頼
 - SC2専門委員会がIVD登録主体となる
 - 汎用電子成果物の継承に係る合意形成

時期	内容
2013年7月 (完了)	第1期IVD登録候補の確定、SC2専門委員会への依頼と登録案の提出
2013年7月～9月 (完了)	SC2専門委員会による登録案のレビュー
2013年秋	Unicodeコンソーシアムによる公開レビューの開始
2014年上期	MJコレクション第1期の登録完了
2014年夏以降	MJコレクションに対応したIPAmj明朝フォントの公開